

出題分析			
試験時間	80 分	配点	150 点
		大問数	4 題
分量 (昨年比較)	[減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 難化]
<b>【概評】</b> 大問数が 3 題から 4 題に増えた。小問総数 36 問，うち論述数 12 問 (24 行) で，昨年から微増した。地図問題，資料読解問題，グラフ読み取り問題は引き続き出題され，その数も増えた。また，大問 I のリード文が日本史と共通していただけでなく，大問IVをはじめ日本史との共通問題が 5 問出題された。このほか，考察の背景を問う問題が増えるなど，「歴史総合」らしい出題が見られた。グラフ問題・地図問題は細かい内容が問われたが，論述問題は全体的に取り組みやすかったことから，難易度は昨年並みと思われる。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	万国博覧会の歴史	問 1・5・6 が日本史との共通問題であった。論述問題はいずれも基本的な内容であり，問われたことを過不足なくまとめたい。問 5， $\delta$ のサイパン島は世界史選択者にはやや細かかったか。ニューカレドニア島を筆頭に，太平洋諸島の位置は難易度が高い。問 6，第 1 図の「日本の消費者物価指数」の動きから，頂点になっている年の前年が第 1 次・第 2 次石油危機に当たると推測するのが解答への近道だろう。a はプラザ合意 (1985)，b は 2008 年国際金融危機，c は第 1 回サミット (1975) である。	やや難
II	国連気候変動枠組条約国会議	問 7 ①，エジプトの政治・経済状況はエジプト革命とアスワンハイダムをめぐる問題に触れたい。同②，b は「民族的郷土」からバルフォア宣言と判断できる。同③④，b と c の折れ線グラフが欠損していることから判断する。問 9，a のビキニ環礁 (4) と b のスリーマイル島 (8) は，名称を覚えていても位置の特定は難しい。前者はドイツ領南洋諸島から日本の委任統治領となった歴史を持ち，後者はペンシルヴェニア州を流れる川の中州にある。c の Cholnoyev はウクライナに位置することから判断したい。	標準

設問別講評			
III	北アメリカ大陸の歴史 (近世～近代)	問 11①②, ブラジルは 1500 年にポルトガルに領有され, その後はオランダも進出するなど, 比較的早期にプランテーション開発が進んだ。問 12 のスピーチはそれぞれ, a はガーナ独立の 1957 年, b は内容から 1900 年, c はマンデラが釈放された 1990 年のものと判断できる。問 13 のグラフは, 問 6 に比べて解読が容易だった。①の綿花輸出額が急落している期間は南北戦争 (1861～65), ②の金産出量が急増している 1849 年は, カリフォルニアで金鉱が発見された翌年である。資料は a が門戸開放宣言 (1899・1900), b が 1882 年移民法, c が南北戦争中に公布されたホームステッド法 (1862), d がミズーリ協定 (1820) である。	やや易
IV	慶應みらい君の探究型学習	日本史と完全に共通した大問。情報量はそれなりに多いが, 米の移入と輸入の違いに留意して内容を丁寧に把握すれば, 求められていることはそこまで難しくはない。問 14 は, 日本の前年米穀生産量の下降と併せて, 外国からの輸入量が増加しているという関係に注目したい。問 15 は, 資料 a から仏領インドシナや英領インドで米穀輸出が制限されたことを読みとり, その影響をグラフから読み取る問題である。資料 a の文章がやや読みづらかったかもしれないが, グラフからシンプルに読み取ったことを設問の要求に沿ってまとめれば良いだろう。	標準

#### 合格のための学習法

慶應大の経済学部は出題が「1500 年以降を中心」と明示している点や, 資料 (グラフ・表・史料文など) を多用する点で極めて特徴的である。それだけにかえって傾向をつかんだ対策はとりやすい。小論述問題対策として教科書を読み込み, 資料問題対策として資料集を読み込んでおくとよいだろう。記号選択問題では, 時代の流れから年号を推測する練習を積んでおこう。また「歴史総合」も積極的に出題する傾向があるので, 日本史との関連事項や思考力系の問題についても, より意識的に対策したい。